

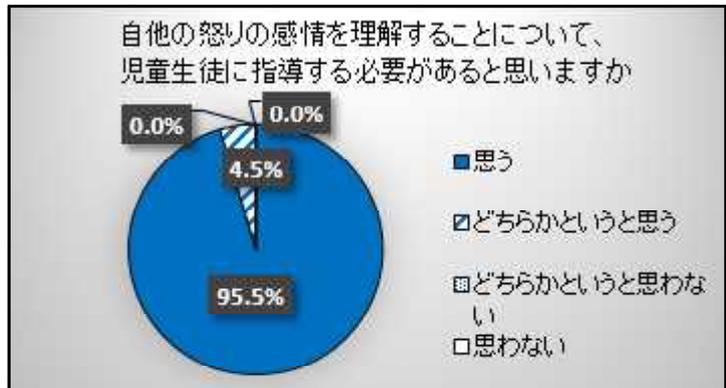
参考 公開授業参観者のアンケート結果と意見・感想

本研究委員会では、小学校1校、中学校1校で授業実践を地区内の先生方に公開し、授業研究会を行いました。延べ42名の先生方に参加していただきました。

公開授業研究会後の参観者アンケート結果と、記述していただいた御意見や御感想を紹介します。

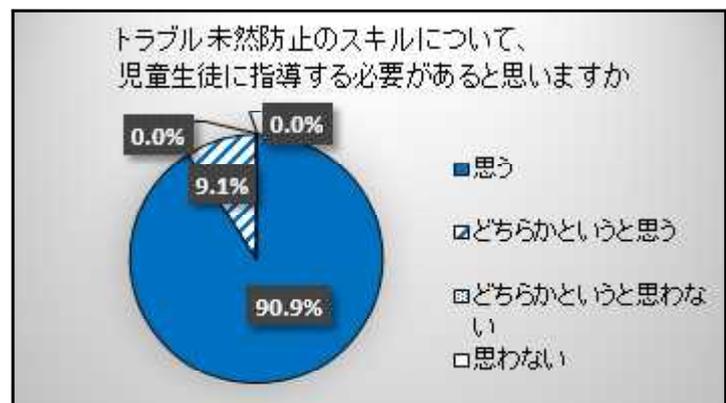
1 アンケート結果

- 「自他の怒りの感情を理解することについて、児童生徒に指導する必要があると思いますか」の質問に対して、「思う」「どちらかという思う」と回答した人の割合は100%で、全ての参観者が指導の必要性を感じていることが分かりました（資料1）。



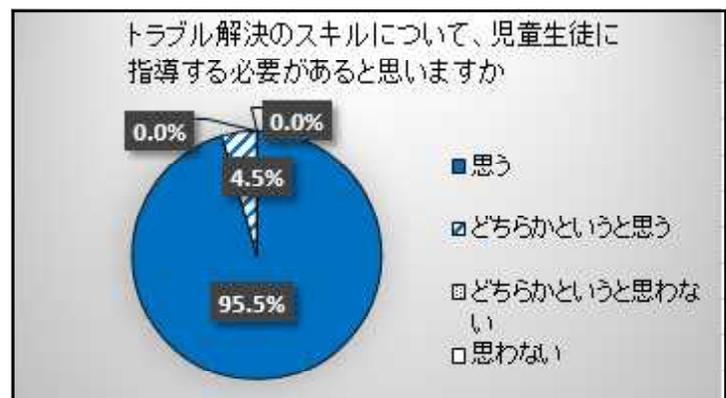
資料1 参観者アンケートより

- 「トラブル未然防止のスキルについて、児童生徒に指導する必要があると思いますか」の質問に対して、「思う」「どちらかという思う」と回答した人の割合は100%で、全ての参観者が指導の必要性を感じていることが分かりました（資料2）。



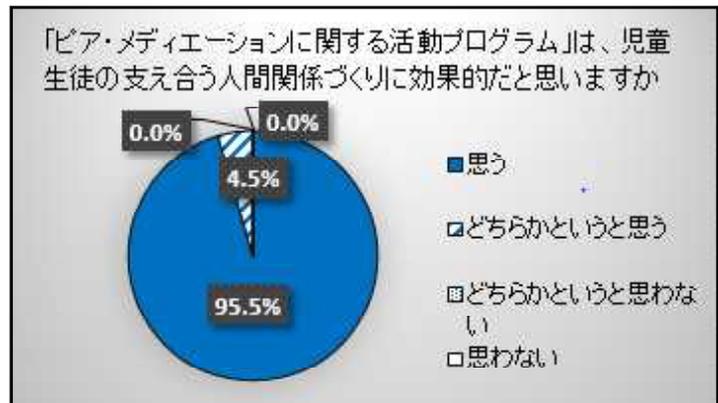
資料2 参観者アンケートより

- 「トラブル解決のスキルについて、児童生徒に指導する必要があると思いますか」の質問に対して、「思う」「どちらかという思う」と回答した人の割合は100%で、全ての参観者が指導の必要性を感じていることが分かりました（資料3）。



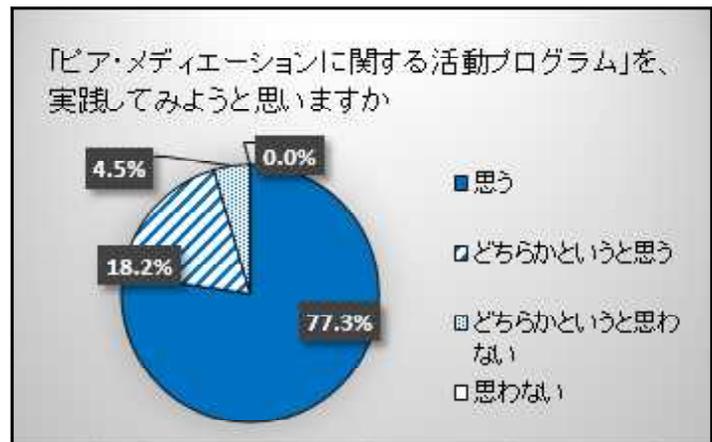
資料3 参観者アンケートより

- 「ピア・メディエーションに関する活動プログラムは、児童生徒の支え合う人間関係づくりに効果的だと思いますか」の質問に対して、「思う」「どちらかというと思う」と回答した人の割合は100%で、全ての参観者が活動プログラムの有効性を感じていることが分かりました（資料4）。



資料4 参観者アンケートより

- 「ピア・メディエーションに関する活動プログラムを、実践してみようと思いますか」の質問に対して、「思う」「どちらかというと思う」と回答した人の割合は95.5%で、ほとんどの参観者が実践したいと感じていることが分かりました（資料5）。



資料5 参観者アンケートより

2 参観者の意見・感想より

<評価できること>

- ・「怒りのマネジメント」は大変有意義な内容で、指導する必要があると思う。
- ・イライラするメカニズムやイライラした自分を客観視することで、落ち着いた生活ができるようになると考える。
- ・教師が常に側にいるわけではないため、大変必要な内容だと思った。
- ・自分を客観視できる児童生徒を育てることができると思う。
- ・子供たち同士でトラブルの仲裁ができれば、毎日の多くのトラブルを少し減らすことができると思う。
- ・個人対個人のトラブルの解決法が丁寧に指導されていて分かりやすい。
- ・トラブルの当事者のみに指導していたことを、学年全体で取り組むことができるのは素晴らしいと思う。
- ・子供同士による解決の仕方を身に付けると、その後の人間関係が良くなると思う。
- ・トラブルの当事者の間に入るときのポイントを知るだけでも、今後の生活に生かすことができる。実際にどのようにすればよいか体験することの大切さを確認することができた。
- ・いじめ防止に有効だと思う。
- ・トラブルを自分たちで解決しようという雰囲気生まれてくる。
- ・子供たちの人間関係づくりの力を高めることができる。
- ・具体的な事例で体験することは、児童生徒が今後の生活の場で生かすことができると思う。

- ・トラブル解決のスキルを学ぶことで、勇気をもって声を掛け、仲裁者になる子供が出てくると考える。
- ・中学校3年間の流れや、学級や学年の実態に合わせて取り組むことができる。
- ・児童生徒同士でのトラブル解決の意識をもたせたり、スキルを身に付けさせたりすることができると思う。
- ・学校でも社会に出ても、支え合う人間関係づくりは大切である。小・中・高等学校で発達の段階に応じて学習できるのはよいと思う。

<課題となること>

- ・小学校では、1年間で6時間全てできるかどうかは検討が必要である。
- ・個人対個人だけでなくグループ対個人も考える必要がある。
- ・教育課程のどこに位置付けていくのか明確にすべきである。

<その他>

- ・教師も仲裁者の意識をもって日々のトラブルに対応し、子供たちのモデルになるべきだと思う。
- ・普段トラブルがない学級でも、転入生が来たときや中学生・高校生になったときなどの、トラブルが起きたときを想定して授業を実施することが大切だと思う。
- ・早いうちからスキルを身に付けることができるように低学年から指導する方がよいと思う。
- ・研究成果を多くの先生方に知ってもらうために、積極的に宣伝してほしい。
- ・気持ちの伝え方や言葉の使い方の未熟さから起きるトラブルが多いため、トラブルにならない話し方の学習の時間を多く取るべきだと思う。
- ・人間関係づくりはとても大切なことである。発達の段階で考えることも変わっていくため、中学校1～3年生で同じ学習を繰り返し行ってもよい。